自然系学芸員シマムーの にこにこ通信 NO.5

暖かい日が多くなり春本番を実感しますね。こんにちは、自然系学芸員のシマムーです！皆さんは春というと何を連想しますか？春を連想させる言葉で、多くの人が「桜（サクラ）」をあげると思います。私たち日本人の歴史・文化の中で「桜」は、あの色や香りも含めてゆるぎない春の代名詞となっています。陸上だけでなく、水の中にも「春を感じさせる」「春を告げる」生物がいるのを知っていますか？有名なのは、カツオ、ニシン、メバルです。ニュースや天気予報の話題で紹介されるので、聞いたことがあると思います。

さて、博物館にも「春」を感じさせてくれる、収蔵資料がたくさんあります。その中から、今回シマムーが紹介するのは**「サクラマス」**です。

「マス」という魚は、水温の低い川の上流（渓流）にいるイメージがあり、「浦安」と「マス」とではあまり関係が無いと思われますよね。実は「マス」の中には、川と海を行き来するものがいるのです。皆さんが知っている有名な魚として「サケ」がいます。川を上って卵を産んで、生まれた稚魚は海に下り、成長して再び川を上って産卵して生涯を終えます。

※「サケ」と「マス」は同じ仲間なのですが、呼び方がなぜ違うかはここでは、お話しません。

2005 年 4 月 24 日。旧江戸川河口で採集されたある魚を、シマムーは手に入れました。銀白色の体色、全長 500 ㎜の**「サクラマス」**でした。シマムーも「サクラマス」のことは、淡水系の水族館でしか見たことがありませんでした。「サクラマス」を手に入れたときには、すでに死んでいましたが、実物を手にしたときのワクワクした感じは忘れられません。以前、投網の漁師から「投網で『マス』がとれた。」という話を聞いたことがあったので、『これかぁ！やったぁ！』と、思いがめぐりました。そして、すぐに「サクラマス」について調べてみました。

「サクラマス」は川で産卵し、稚魚が生まれ、成長すると海に下り、回遊生活を行います。川にとどまるグループを**「ヤマメ」**と呼びます。北海道・東北・北陸では、多くの稚魚が海に下ります。東北以南にも「サクラマス」は生息しますが、海水温が高いためか、海に下り回遊生活を行う個体は少ないようです。そして、「サクラマス」が川から海に下る南限は、千葉県とされています。ですから、この手に入れた「サクラマス」は、大変貴重な資料なんですよ。

「サクラマス」は、冬の終わりから早春にかけ海に下り、回遊生活をしながら約１年の間たくさんの餌を食べます。海に入った直後 15-18 ㎝であった体長が、約 1 年で 50-70 ㎝となり、川に産卵のため戻ってきます。また、「サクラマス」が海に下るには、塩分濃度調節など河口域での準備が必要です。その時に、川にいるときには鮮やかだった模様が、イワシのように鱗が銀化していきます。海ではたくさんの餌をとることができますが、自分も鳥や大型の魚に狙われます。その確率を下げるため、イワシのように銀化（海に出ると海上からも水中からも狙われます。水の反射に体が紛れるよう、鱗が銀色になっていきます。）するのでしょう。1 年後の 3～4 月に河川を遡上し始めると、産卵まで約半年ほとんどエサを食べません。海で蓄えた栄養で産卵まで持ちこたえます。川には体力を維持するだけのエサがないことを、本能的に知っているのでしょうね。だからこそ狭くて競争が激しい川を下り、海でたくさんの餌を取り大きく成長するのでしょう。

旧江戸川を下り、ディズニーランド脇を通り、東京湾で泳ぎだす姿や、大きく成長し桜咲く頃に再び川を上る姿を思い浮かべると、私たちの身近で行われている自然の神秘を思い知らされますね。

QR コードを読み込むと「浦安市郷土博物館」のホームページが開きます。バックナンバーも読めますよ～！